



藤井泰光先生

高校 33 回 荻野清明

昭和 55 年度から藤井先生（浦高 7 回卒）が監督になった。当時の浦和高校の先生の中では群を抜いておしゃれであり、黄色いワーゲンビートル乗って、趣味はバードウォッチングというから半端でない。サッカーそのものを教えていただいた記憶なあまりなくシンプルなサッカーをモットーとしてひたすら精神面の充実と規律についての指導を受けていた。練習での口ぐせは「そんなキックだったら小学生の方がよっぽどうまいぞ！」浦高生は意外に素直で、そう言われると「ああそんなものかな」と納得してしまいスランプになった者もいるとか。

菅平に夏合宿に行った時の事。疲労から来る食欲不振で皆サラダから平らげているのを見て、そっとロッジの人に野菜サラダの大盛りを追加して下さったことを思い出す。口では「菅平じゃ野菜はただみいたいなものだから食いたいただけ食え」と言っていたが、選手思いの心遣いがとてもうれしかった。

学徒大会の決勝戦で武南に敗れた 2 日後、肉体も精神も疲れ切った中で迎えた関東大会の第 2 代表決定戦で“鬼の松本”先生（浦高 5 回卒）率いる浦和南の試合中 0 対 0 の状況が続く中、ベンチから「難航しているのは南高ダッ！がんばれッ」の先生の声に鬼が笑ったというエピソードもある。

先生はまた、強化のためとはいえ毎年大金を払って静岡に遠征するよりも浦和で大会を開こうと提案され、浦和南の松本先生、浦和西の仲西先生、浦和市立の磯谷先生と協力して「浦和カップ」を開催まで持っていかれた主人公でもある。

他の多くの学校のように、父母の会や後援会を作るよりも、先ず OB との連携を密にする方が先決とし、物心両面の援助を OB に仰ぐ為に OB 会の組織化を図られた。太田さん、堀口さんをはじめとする OB を大切にし、常に浦高の復活を願う藤井先生、グラウンドでは言葉は少ないが、そのぶん心の中で全てを観察し厳しく評価しているようで、正直なところ選手にとっては怖い存在の監督であった。

先生は、選手としては浦和常盤中学-浦和高校-東京教育大-埼玉教員クラブを通して主将を務められ、その間全国高校選手権大会を制覇し、大学時代には全日本 B チーム入りしている。国体には高校時代を含めて 15 回出場して 7 回優勝、5 回準優勝している。その間、埼玉県サッカー協会の副理事長として又事務局長として東京オリンピック大会、ワールドユース大会、アジアユース大会をはじめとする大宮サッカー場を会場とする各種国際大会や、10 年を越す全国中学生サッカー大会、毎年正月の全国高校選手権大会の運営、また、埼玉県サッカー史の編纂等にその才能を発揮された。

その後、審判の道に入り浦高としては浅見俊雄氏（4 回卒）倉持守三郎氏（4 回卒）に続く 3 人目の国際審判員として国内外で活躍され、現在は日本サッカー協会審判委員会指導育成部員として、また、レフェリーインストラクターとして活躍されている。